

ハウスかわら版 第5号 1976.3.23
長体 水野義久監修特集号 編集人末吉央伯

第5号 1976.3.23

水野孝氏追悼特集号 編集人 末吉 夾伯

故水野孝氏しのぶ特別号



2.4.15:00 永遠のスカウトに

和郷BS8人を含む。
4N丁(日本原参加)
BS隊長就任
地盤所北越越8期(後)登場
西野カラン。(大庭頭)
BS隊長シンド(野川)
シニア隊リーダー
W.B.改修所会員那須
サモナ初代事務局長
サモナ10周年行事
ウド・ラジ機子(仙台)
5.4(創立)8月1日第1
岸崎總務入社
13.WJ朝霧号参加
結婚。幼少時代へ
長女生れる
永眠



不思議な事口で、外見の開幕会(口宣)でのもの

思うまゝに

小 川 玄 諦

患者が帰国、癌で入院との報告を受けたのが1ヶ月前。四回育成会の席でのことと、なすすべもなく動ようとする自分を見い出すばかりでした。

孝君が、癌の宣告を受けてから、彼の心の中では恐らく寸時の絶え間なく、迫つてくる死の聲音に耳をすまし死を凝視した日日であつたと思うし、外國にあつて自分で整理し、せねばならぬことどもに思いをいたしつつ父母の膝下に一日も早く帰りたかつたことは容易なことではなかつたであろう。その内心は自己との闘いの連続であつたに違いない。

病床に見舞つて、語る言葉も続かずたゞ、たたずんで横たわる彼の姿をなすすべもなく見守る私の心に、その聞いの旋律が私に迫つてくるのに、どうすることも出来ぬもどかしさは、自分の力の弱さとが私をいらだたせるばかりだつた。

御両親の膝下に一時も早く その慈愛の眼に接し 少しでも心の安ら
を そして京の街々を 可愛いい最愛の奥さんと子供の手をとりあつて
ぼくらスカウト仲間と散策したい幻影が胸裏にうづまいていたことだろ
う。

孝君の入となりについては、仲間のスカウト賭君のよく知るところである。人と人との間ににおいて最も暖いものは成り立つし、その反面も人と人との間の世界であるが、その暖かさが相互の親類と理解を生み、末吉、水野の名コンビとして歴史を發展せしめ、後に続くスカウトが上を兄貴として慕はしめた。彼は私の前では、実に温和な青年であつたがスカウティングが彼の大きなバックボーンとして一貫してすじを通してゐたことは、^{孝君の}生活自体が自己表現的であり、創造そのものであつたと言つて過言ではない。その意味から 短い生涯であつたとは言え、躍動の

生活そのものであつたと思う。

人間といふものは、實に懇しくもさびしい存在である。現代は死が突如としてやつてくるといはれている。眼前の事象に心身を勞し、心をうけばわれ浮動している私達に、「問い合わせ」をかけ言葉なき言葉をもつて残れる私達に真に生きゆく道を教えてくれる宰君である。

七日七日の命日に、その影前に私も、御両親も、そして奥さんも、皆次
合掌するのも孝君の一切の地上の妄執を超えた世界から招きよんでき
ているからであろう。

私が挙むとき、何故かさびしそうであるけれども、仏となつて、私は
温和な彼が私に厳しくよびかけてゐると、ひたすら頭を下げる私である
お正信の遊煩悩林現神通 入生生死圓示庵化を味はさせられている
私である。

君、今ここに存さずとも ここにいます。

孝さんを偲んで……

楨本信也

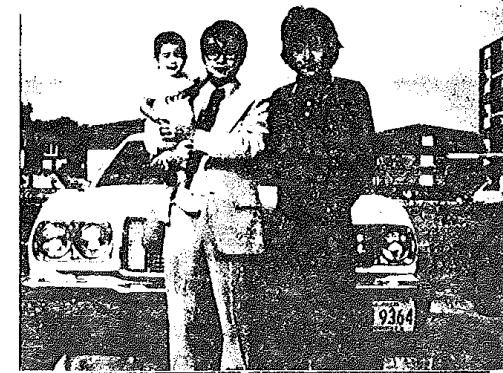
私が初めてしかも最後に“孝さん”と親しく話し合ったのは、昨年9月のことですが、あの時の情景はまるで昨日のことのようにはっきり覚えています。

シカゴ郊外（さうシカゴより自転車で約3時間）にある“巻さん”的アパートにあじ
やましたのは夕方6時頃でした。その日も“巻さん”は会合でその会合をおざわ
ざ僕と会う為に途中で抜け出しほとんど初対面の僕の為に早く帰宅して下さった
のです。彼は、帰ってくるなり握手を求めてきてそれこそ百年の知己に会った
ような親しさで僕のほとんど知らぬアメリカの社会の事や、商売のシステム等々
について、またメキシコへ行った時のことをetc.熱心に話してくれました。

また、話し渡れると「おもしろいゲームがある」と言つて奥さんもいっしょに3人で「トランプ」に時間も忘れ打ち興じたものでした。その時の奥さんの熱心なミミとつくづく舌を巻きました。

翌朝は朝食もそこそこに。されば食しきつけて、とひの残し車に飛び乗って出勤してしまいました。

孝ちゃんがこの世にいなくなつて
しまだに信じられない気持ちです。
またシカゴへ行けば“よう!!”
と言って、気立くな話しかけて
こられるんじもな“かと思う程
です。もっと色々お話ををして
あればよかった!!
何かそれが心残りでくやし
です。



いつも留年俊なんですから。そして今回三度目の留年俊を私は、奥さんやお子さん、さらに御親族の方々には失礼とは存じますが、あるいは願ひでいたります。それは若さんのスカラシティが音信不通だった時と同じように心中に存在してほしいという勝手な願いから出てきたことです。

スカウトたちが集れば

孝さんは、スカウトと共にスカウトたちの森の中にいます。あの少し調子ぼれの山鳩の歌を歌う歌聲が聞えます。

だから今、ここで孝さんは肉体との別れだけを考えたいたいと同時に、あなたのスカラシティの旅立ちが今ここにあるとも考えたいのです。見送りの際、調子はずれでない山鳩の歌を歌つてあなたのスカラシティの旅立つのをなわけどうと思ります。

旅に出るとは云々も孝さんのことだからシカゴほど遠くなく、ごく身近に隠れていて、そこの存在の明しとして、自己的スカラシティを想起

昭和五十一年二月六日

未吉典

弥
景

たしま

最後にこの別れを告ぐるにあたり、多年
にわたる友誼の厚さに深く感謝し、心から
そのご冥福をお祈りいたします。

<遺文> これは後が新婚旅行の帰途、京都でスカウト仲間が集めて歓談したためのもの。

思い出は過去の為にではなく
未来に続く現在の為に
美しい書き出しを
次の大きな飛躍の糧に
絶ゆまさる勇気と努力で
常なるスカウティングに
精進して下さい。

世の平和と引ひては
自からの幸福の為に

1973年 11月 10日

元38團少年隊長

水野 孝

弔辭

(全文)

孝さん、孝さんからのクリスマスカードが
暮れ届いたとき、元気なシカゴでの生活を思い
浮べ、うれしさを感じておりましたのに半月せ
ぬ間に病院のベッドで再会しようとは夢のよう
に思えなりません。病院でお会いしたとき何の
元気づけをすることも出来ず、私にとってスカウト
で最も近しい人であるあなたがこんな病院にかかる覚
て同じ人生のはかなさを味わつたことある私につ
て考るるあなたが可哀想で、その場では、ギッタラシ
カゴは本当に遠いなあ、遠すぎるよ、とか云ふこと
が出来ないで、自分自身口惜しいかぎりでした。
孝さんはスカウトとしての第一の誕生日であ
るちがいの式が一緒ですね、数えてみれば昨年の1月
二〇日で十六年を越えたのですよ。京都サバチの
語りこまである最高のコンビを組む始まりはあなた
昔に遡ります。班長役となつて新しい班を興し、
一緒に一級テストハイクも行きました。丁度食喰
と同じ寒い時期でした。石を焼いて新聞紙で包み
粗撚がやしてくれると、二人とも二人分の味わいをか
みしめてたのですね。

私は出身によるリーダーコンビを組んだのも孝さん
と私でした。休暇の旧地方慶修祈能祭度頭の隊
きんや、どくへもりも一緒にでした。その時スカウトが
今はもう立派なリーダーにならいます。あの時少
しもシックにかつて隊長であるあなたと一緒にアド
テラスアドバイス隊長を務めました。また国際キャンプスカウト隊
員でアドバイス隊長となりスカウト代表として参加し、アドバイス隊長を
お放していくことに悩んでいたけれど、不安なく私に留
守後をまかせてくれたおかげで、気がねなくあなた
日本スカウト代表として参加し、アドバイス隊長
たちとの交流をはかつてくれて、それからもう少し
てくれたものは今でも生きています。

矢崎総業に入社するとともに、「ヨさんあんたす
か」「スカウト活動続けてうまいよ」と云い
ましたね、そして私は孝さんのそんな立場を蓮にう
やまじときいました。お互いに自分の出来ることを
相手がやてくれる限り、二人とも二人分の味わいをか
みしめてたのですね。

だが、どうは思うまい。過去、キヤンヤスラフの参
加のときと、就職してスカウト会場から離れた
ときの二回、留年役を務めました私は、本当

結婚披露宴に呼ばれて沼津まで車で、それでバ

ンガードキーパーとお揃い鳴らし歩きの練習をしな
がら参上して、今更思えば一番レンチを食卓を
やりかしたのですが、それを何ううと喜んでされ
たのは、あなたがラドバッジをいつもワイヤーネット
にぶら下げるところでもスカウトだと云うまま
したから、やっぱりスカウト魂をもつて良かつた
からでしょ。

京都を離れ沼津東京・シカゴに至る今まで
手紙のやりとりなどは全くなかなければ、通信なくも
いつも通じていると誰かは云うべきだね。本当普
信木通ではあたけれど、そり、とはなどはどうつか
からず、お互いにこの世に存在していること、だけが
安心していらっしゃったのですから、それが最大の喜びで
した。その孝さんがあなたのことをもうこの世に存在しなくなる
しましたのかと思うと残念です。

だが、どうは思うまい。過去、キヤンヤスラフの参
加のときと、就職してスカウト会場から離れた
ときの二回、留年役を務めました私は、本当